

■全体を通しての学び、連想など

福沢諭吉について、執刀医というよりは診断医といった対象への関わり方[p.299]で、主に著述により日本の近代化を進めた人物という印象を持つようになった。(…ピーター・ドラッカーが「社会生態学者」を名乗っていたのを思い出した。)彼は、中津藩時代の不平不愉快[p.187]を背景に、人世に義憤(公憤) [p.236, 246, 327]を持ち、独特の世渡りの姿勢・生き方に関する哲学(自力自活の独立心、安心決定、メタ認知[p.183]など; 弊社理念の「自律共栄の納得人世」との類似)でもって、激動の時代において、日本の文明化に貢献した。

私自身は小さな頃から、「(特定の)人間の都合によって作られた社会の規則」などよりも、「自然界の法則」方がより大切なものだとして強く惹かれてきたためか、私と同じように「元来わたしの教育主義は自然の原則に重きをおいて」といった考えを持つ福沢が、「人付き合いや世渡りの方法」に関して記している部分に、最も興味を覚えつつ読み進めた。…CGGの開始にも、人間観・世界観・歴史観といった部分について学び考えることを期待していたので、第1回テキストとしても、良い選択だったのではないかと思う。

彼の生き方に触れることで、以前に読んだことのある、柳生宗矩の「兵法家伝書」と沢庵の「不動智神妙録」からの学びとしてまとめておいた次の3点を思い出した。

●執着心から離れる & 平常心 & 不動心

- ・無理に〇〇しようとする心は、普段の心からすると、揺れ動いていることになる。
- ・打ち寄せる波のままに動く月影が、実は不動を持しているように、そういう人は、動いているように見えて、その心は動かされることなく、いつも安定を失わないのである。
- ・外、柔にして、内、剛なり。

●間に髪を容れず

- ・打ち出した太刀に、心を固着させない。その太刀が有効であろうとなかろうと、構わずに、幾重にも攻撃をたたみかける。

●間積もり

- ・「間積もり」ができていれば、相手に「入れ揚げ」ほどの精神的距離に自分を置くこともなく、追従者の背反行為に対して「裏切られた」という気になることもない。

また、「礼記」に「君子の交わりは淡きこと水の如し」(信義のある紳士というものは、いかに親友に対してもさらさらした態度であり、そのくせ実が深い。手を取り肩を抱いてことさらに親しみも表さねば、弱点で引き合っつてのめりこむような付き合いの仕方もしない。)という言葉も、類似しているように感じて、思い出した。

■現在の自分にとって、特に学びとなった部分

●世渡りの姿勢…「喜怒色^{あら}に形わさず」(元々は、蜀志の先主伝の言葉の一部) [p.23]、「戯れに居合を抜いて、ずいぶん好きであったけれども、世の中に武芸の話が流行すると同時に居合刀はすっかり奥にしまいこんで、刀なんぞは生まれてから差すばかりで抜いたこともなければ抜く法も知らぬというようなふうをして」 [p.161]、「決して他人を軽蔑しない〜身分の相違を問わずたいそうていねいに取り扱うて」 [p.175]、「藩中の子弟を教えるということをしていながらも、藩の政庁に対してはまことに淡泊で、長い歳月の間ただの一度も建白なんということをしたことはない」 [p.176]、「主従の間も売り言葉に買い言葉」 [p.178]、「双方ともに朋友」 [p.194]、「交際を広くして愛憎の念を絶ち」 [p.273]、「莫逆^{ぼくげき}の友なし」 [p.276]、「交わりて赤くならぬこそ男子たるものの本領」 [p.279]、「死後に見せることを生前に言うことができないとはおかしい」 [p.286]、「殻威張りの群に入るべからず」 [p.294]、「陰弁慶の筆をいましむ」 [p.307]、「人に交わるの法」 [p.310]などのほか、手紙・紹介・クチコミ・心理学の活用例が多かった。→裏表のない対等の関係、独立自尊の距離感、流行との距離感を重視

●安心決定^{あんじんけつじよう}(コミットメント?) [p.23]…「廢刀を決心して、少しも世の中に頓着せず」 [p.230]、「これは政府の圧政ではない、人民の方から圧政を招くのだ」 [p.233]、「慶応義塾を永久に残しておかなければならぬという義務もなければ名誉心もない」 [p.235, 309]、「勝負は時の運による〜議論^{あだ}が中らなかつてもかまわない」 [p.296]、「起こすと同時に倒すの覚悟…時事新報」 [p.306]、「すべて事の極端を想像して覚悟を定め」 [p.308]→弊社理念の「自律共栄の納得人世」に通じる部分

●モチベーション…「ただむずかしければおもしろい、苦中有楽、苦即楽という境遇であった」 [p.89]、「目的なしの勉強」 [p.90]→CLPで伝えている「プロセス主義と結果主義」の話との関係

●東洋になきもの…「東洋になきものは、有形において数理学 (Physical Science) と、無形において独立心と、この二点である」 [p.207]

■相互啓発を通して学んだ事柄

・受験に関わるサービスを提供しておられる組織の方にも、「与えられた問題を解くこと(与えられた筋書きのゲームを楽しむこと)だけやっていると、人生に本当の喜びが感じられないのではないか?」と感じる方がいらっしゃる。→ここ最近のニューズレターにも書いてきている「問題(再)設定」が大切だというメッセージの重要性を再認識した。

以上